

ストーブ火災を防ぐポイント

- 外出時や就寝時は必ず消す。
- 周囲に布団やカーテン、洗濯物などの燃えやすいものを置かない。
- スプレー缶は近づけない。
- 給油は必ず消してから行う。

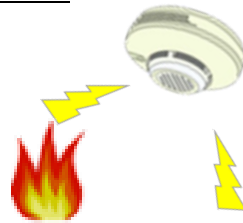


ストーブ火災に備えて

住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置しましょう

住宅用火災警報器の設置により火災の拡大を防いだ事例

バスマットを電気ストーブにかけていたところ、何らかの原因でストーブのスイッチが入り、火災となりました。住宅用火災警報器の鳴動により火災に気づき、119番通報と消火器による初期消火を実施し、火災の拡大を防ぎました。



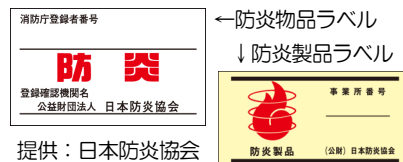
カーテンやじゅうたん、寝具類など住宅内の布製品は防災品にしましょう

防災品の使用により延焼拡大を防げたかもしれない事例

ダイニングテーブルの下で使用していた電気ストーブの電源をつけたまま外出し、付近に置いていた木製椅子の脚及び座布団等の可燃物が電気ストーブに接触して出火しました。



防災品ラベルは2種類あります



※ ラベルには様々な様式があります。

問合せ先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4196

令和6年10月発行

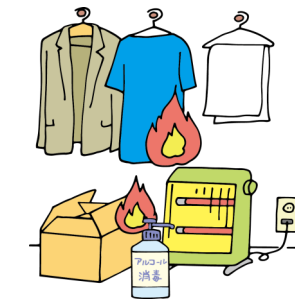


STOP!

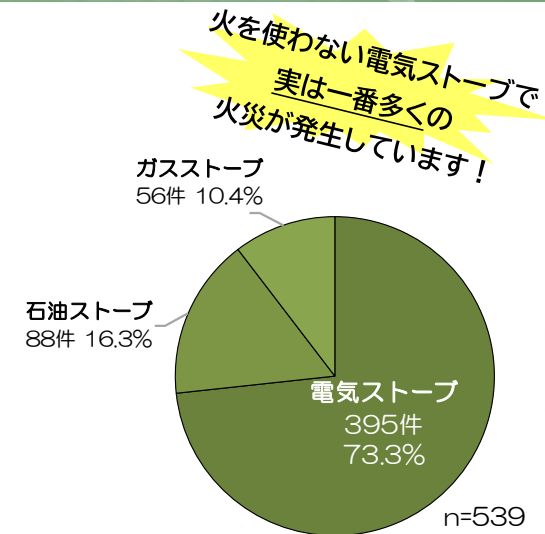
STOP! 住宅火災シリーズ③ 火災から大切な命を守ろう

冬に急増！電気ストーブも要注意！

- 過去5年間で東京消防庁管内においてストーブを出火原因とする火災が539件発生しました。
- 電気ストーブによる火災が73.3%で、非常に高い割合となっています。



電気ストーブに布団が接触し焼損した状況

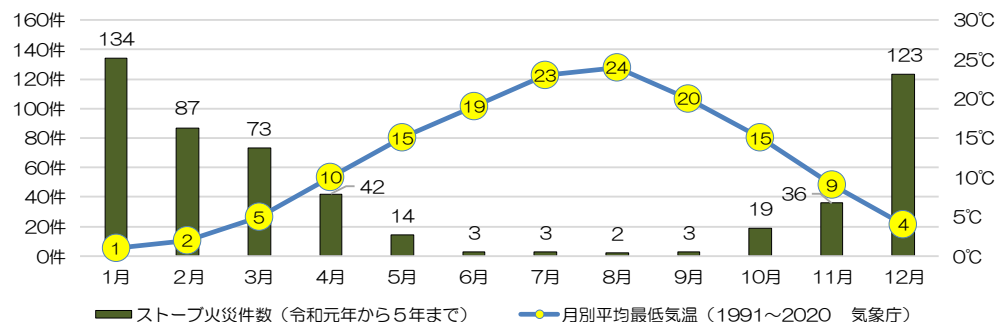


出火原因ストーブの内訳
(令和元年～5年 住宅火災)

東京消防庁

寒い時期を中心に発生！

- ストープ火災は、平均最低気温15度となる10月の秋頃から増え始め、4月の春先にかけての時期を中心に発生しており、注意が必要です。

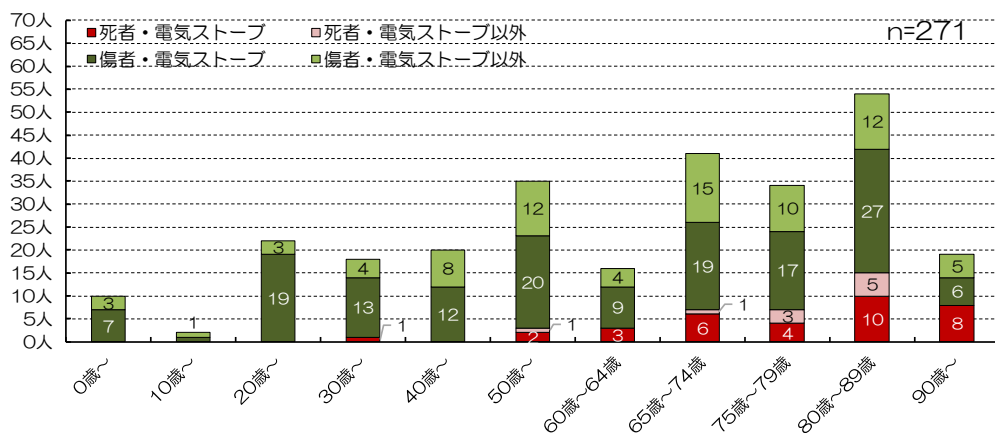


月別のストーブ火災件数 (令和元年~5年 住宅火災)

死傷者の発生状況(過去5年)

- ストープ火災による死傷者は計271人(死者44人、傷者227人)で、このうち約7割の184人は電気ストーブが出火原因となっています。

- ストープ火災による死者は44人で、このうち34人は電気ストーブが出火原因となっています。また、死者44名のうち37名が65歳以上の高齢者です。

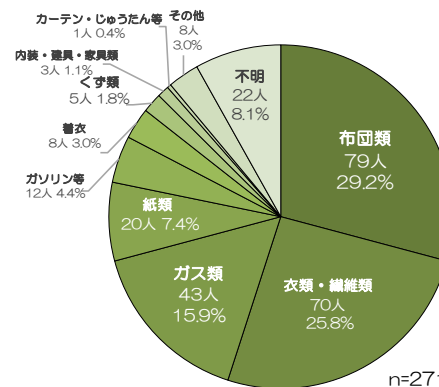


年齢別のストーブ火災による死傷者数 (令和元年~5年 住宅火災)

ストーブの周りに物を置かない

- 死傷者271人のうち、布団類や衣類・繊維類の可燃物に着火した件数は149件で、55.0%となっています。

- ガス類(スプレー缶等)が3番目に多くなっています。



着火物別のストーブ火災 (令和元年~5年 住宅火災)

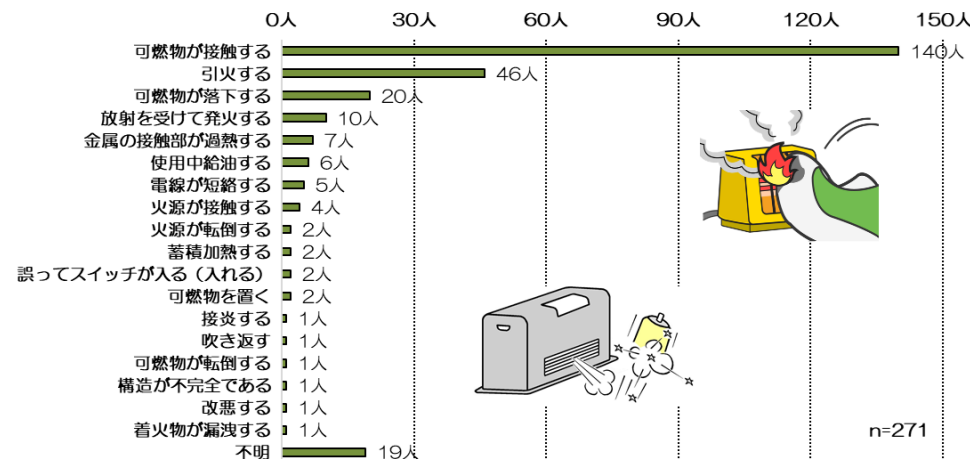


室内でストーブが原因となりスプレー缶内のガスに引火し爆発した火災 (屋外バルコニーの様子)

スプレー缶廃棄時の火災も発生しています！

- 可燃物とストーブが接触することや、ストーブ付近のスプレー缶等が高温になって破裂し、漏れたガス類へ引火し爆発することによって、火災が発生しています。

スプレー缶を捨てる時は穴をあけたりせず、必ず最後まで使い切ってから自治体の廃棄方法に従って捨てましょう。



出火経過別のストーブ火災件数 (令和元年~5年 住宅火災)

